

令和8年度 阪和記念病院 看護職員の負担軽減及び処遇の改善計画

項目	通年目標	令和7年度 追加目標と具体策・達成評価	令和8年度 追加目標と具体策
院内システムの リブレース 電子カルテ 導入への教育	1.各職場への電子カルテとシステム研修の実施 2.電子カルテの運用方法の都度見直し 3.情報管理委員会の開催継続	1.新入職は4月、中途採用は都度 2.継続 3.月1回法人内と院内にて会議開催 評価90%	1.新入職は4月、中途採用は都度 2.継続 3.月1回法人内と院内にて会議開催
保育所の充実	1.全職員対象の院内保育所設置 2.提携会社との連携強化 3.産休、育休後の職場復帰の推進充実 4.入所児や職員の感染症発症時の協力と適切な対応	1.採用面接時や育休明けに保育所見学 2.継続 3.継続 4.継続 評価90%	1.採用面接時や育休明けに保育所見学 2.継続 3.継続 4.継続
福利厚生 の充実	1.福利厚生提供会社ベネフィットワンの加入と利用率の向上	1.リフレッシュ休暇・年末年始休暇・有休の促進、desknetsNEO、ベネフィットワンの広告で発信 評価90%	1.リフレッシュ休暇・年末年始休暇・有休の促進、desknetsNEO、ベネフィットワンの広告で発信
職員への周知	1.desknetsNEOやPCのネットワークの活用 2.主要文書をネットワークで保存し、全職員で情報の共有を図る 3.院内研修計画の作成と研修の実施	1.各種委員会の議事録、その他のニュースなど周知文書の配信 2.看護に必要な情報や医師他コメディカルと共有できる研修を開催 3.継続 評価90%	1.各種委員会の議事録、その他のニュースなど周知文書の配信 2.看護に必要な情報や医師他コメディカルと共有できる研修を開催 3.継続
看護職員の確保 魅力ある病院づくり	1.看護配置HCU4：1、急性期7：1、回復期リハビリテーション13：1、地域包括ケア13：1、療養20：1の維持 2.急性期看護職員夜間配置16：1の維持	1.看護配置急性期7：1の維持 2.継続、12：1に向けて夜間可能な看護師を増員予定	1.看護配置HCU4:1/急性期7：1/回復期リハビリテーション13：1 地域包括ケア病棟13：1/療養20：1維持 2.継続
	3.臨床実習病院としての役割を担い、学生の実習を充実させる	3.学校法人阪和学園や医療系大学の臨床実習を行い、新入職者の確保に貢献する	3.臨床実習病院としての役割を担い、学生の実習を充実させるとともに、新入職者の確保に貢献する
	4.新人看護師教育体制の充実 研修や会議の時間を30分制にし、時間外会議や研修の禁止	4.学研e-ラーニングやビデオ研修を活用し、ラダーI～V及び臨床実習指導者、実地指導者、看護補助の研修を年間計画し、遂行する	4.学研e-ラーニングやビデオ研修を活用し、ラダーI～V及び臨床実習指導者、実地指導者、看護補助の研修を年間計画し、遂行する
	5.看護師の求人及び離職率の低下に努める	5.教育担当者や実地指導者による教育体制を充実し、看護職員の定期的な面接実施（年2回）新入職者は7月・11月に責任者面談をする事で離職防止を図る	5.教育担当者や実地指導者による教育体制を充実し、看護職員の定期的な面接実施（年2回）新入職者は7月・11月に責任者面談をする事で離職防止を図る
	6.ホームページによるPR	6.法人内での看護師募集活動の実施と人員不足時の補充体制ができています（本部人事の協力）	6.法人内での看護師募集活動の実施と人員不足時の補充体制ができています 本部人事、就職フェアなどの参加・PR
	7.時短勤務者への配慮	7.出勤・退勤時間の両方に対応し時短勤務者の残業が発生しないよう調整する	7.出勤・退勤時間の両方に対応し時短勤務者の残業が発生しないよう調整する
	8.育児休暇取得の推進	8.男女ともに育児休暇の申し出に速やかに対応し、育児への不安の軽減に協力する	8.男女ともに育児休暇の申し出に速やかに対応し、育児への不安の軽減に協力する
	9.インターンシップや病院見学を積極的に実施し、新人看護師の確保に努める	9.人事課と協力し、学生の要望や意見を聞きながら実施していき、働きやすさを伝える 評価90%	9.人事課と協力し、学生の要望や意見を聞きながら実施していき、働きやすさを伝える
	空床状況の把握 緊急入院の 受け入れ対応	1.入退院調整業務について、コメディカル部門との連携をはかり、毎朝病床会議の実施する 2.病床管理委員会を継続（月1回）	1.外来部門責任者が効率の良いベッドコントロールを目指す、入退院支援看護師の配置、予約入院患者への情報収集や計画書の作成、退院カンファレンスの早期実施、法人内各施設・訪問看護と協力しスムーズな退院及び在宅復帰を援助する。 2.継続 評価90%
夜勤時のトラブル	1.夜間救急受付に警備員を配置 2.看護師が業務に専念できるよう体制を整える（放射線部・検査部・事務部・薬剤部の協力体制） 3.緊急時の連絡網の確認	1.継続 2.看護責任当直者が緊急入院や手術、急変時等に協力体制・応援体制がとれるようサポートする 3.継続 評価90%	1.継続 2.看護責任当直者が緊急入院や手術、急変時などに協力・応援体制がとれるようにサポートする 3.継続、BCPに備えてアプリを開発中（本部）
薬剤管理 （薬剤師のサポート）	1.持参薬管理、服薬指導（退院時を含む）の実施 2.患者の内服情報や医薬品の副作用情報交換や照合 3.使用方法の確認が必要な場合の医師への情報提供の実施 4.病棟内の薬剤管理業務の充実化 5.点滴準備や化学療法業務への関与	1.継続 2.病棟カンファレンス等に参加し、薬剤についての問題点などがあれば解決できるようにする 3.医師へなるべく早めに処方オーダーを入力してもらうよう働きかける 4.継続 5.継続 評価80%	1.継続 2.病棟カンファレンス等に参加し、薬剤についての問題点などがあれば解決できるようにする 3.医師へなるべく早めに処方オーダーを入力してもらうよう働きかける 4.継続 5.継続

リハビリテーション	1.転倒転落等によるリスク因子の軽減に向けた取り組み	1.担当セラピストが病床会議や身体拘束廃止委員会、褥瘡NST委員会退院カンファレンスに参加	1.医療安全カンファレンスに参加し転倒転落ラウンドを実施する
	2.セラピストによる院内研修の実施	2.継続 評価90%	2.継続
看護補助業務	1.急性期看護補助者25対1で配置継続	1.継続	1.継続
	2.急性期夜間看護補助を100対1で配属継続	2.継続	2.継続
	3.看護補助業務の遂行及び業務枠の拡大、療養病棟看護補助体制充実の継続	3.業務の見直しを適宜実施	3.業務内容を見直しを適宜実施
	4.介護サポーターの導入と業務の区別	4.継続 評価90%	4.継続
病棟クラークの育成	1.病棟クラーク業務の充実と業務枠の拡大	1.業務内容に病棟間の相違がない要調整	1.継続
	2.各病棟1名の配置継続	2.休みの時は応援体制をとる 評価90%	2.継続
医療機器管理	1.臨床工学技士による医療機器の使用手順などの指導を受け業務を円滑、安全に遂行	1.継続	1.継続
	2.在宅人工呼吸器やCPAP導入患者に対する機器使用に関する指導	2.継続	2.継続
	3.院内研修の実施	3.ME、業者の協力	3.ME、業者の協力
	4.救急外来でのNPPV装着・心肺停止時のACLSフォロー	4.継続	4.継続
	5.夜間等の緊急透析、HCU病棟でのCHDF管理	5.継続	5.継続
	6.心臓カテーテル治療時の患者ケアのフォロー	6.継続	6.継続
	7.看護師が多忙時、ポンプなどの医療機器のデリバリー	7.継続 評価90%	7.継続
栄養サポート	1.栄養（NST・褥瘡）チーム活動充実	1.継続	1.継続
	2.管理栄養士による栄養指導件数の増加	2.継続	2.継続
	3.入院患者の嗜好調査実施	3.継続	3.継続
	4.患者の病状に合わせた食種や形態付加食の提案	4.継続 評価90%	4.継続
口腔ケアサポート （歯科衛生士のサポート） ●多職と連携し患者の口腔管理をおこなう	1.医科歯科連携推進（外来・術前・術後、入院、退院支援、在宅）	1.継続	1.継続
	2.患者指導（口腔衛生指導、保健指導）	2.継続	2.継続
	3.口腔観察	3.継続	3.継続
	4.専門的口腔ケア	4.継続	4.継続
	5.口腔情報の記録（カルテ入力：その他記録）	5.継続	5.継続
	6.歯科受診マネジメント	6.歯科医師への連絡・調整	6.歯科医師への連絡・調整
	7.口腔に関する安全管理（医療安全・感染対策）	7.継続	7.継続
	8.患者・家族への説明（口腔状態、ケア用品等）	8.継続 評価90%	8.継続
●看護職、看護補助職への指導	1.口腔ケア用品管理（衛生的管理・感染対策）	1.継続	1.継続
	2.日常的口腔ケア（知識・技術・感染対策）	2.継続	2.継続
	3.口腔ケア研修	3.新入職研修・ラダー 評価90%	3.新入職研修・ラダー

